令和２(2020)年
６月１日
第229号 毎月発行
編集　公民館だより編集室
発行　西東京市公民館
毎月第４月曜日は休館日です

西東京市 公民館だより

公民館は、現在、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、休館しています。最新情報については、公民館にお問い合わせいただくか、広報西東京や市ホームページでご確認ください。

柳沢公民館　柳沢1-15-1　☎042･464･8211　kouminkan@city.nishitokyo.lg.jp
田無公民館　南町5-6-11　☎042･461･1170　tana-kou@city.nishitokyo.lg.jp
芝久保公民館　芝久保町5-4-48　☎042･461･9825　shiba-kou@city.nishitokyo.lg.jp
谷戸公民館　谷戸町1-17-2　☎042･421･3855　yato-kou@city.nishitokyo.lg.jp
ひばりが丘公民館　ひばりが丘2-3-4　☎042･424･3011　hibari-kou@city.nishitokyo.lg.jp
保谷駅前公民館　東町3-14-30　☎042･421･1125　ekimae-kou@city.nishitokyo.lg.jp

特別紙面講座

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、公民館は3月1日以降休館しています。そこで、公民館だよりで特別紙面講座を行います。今月号から3回連続で江戸時代の西東京市域を取り上げます。学びを深め、楽しんでいただけたらと思います。

ふるさとむかし探訪
～江戸時代の田無・保谷～
第一回　農民たちはみんな貧しかったのか？
―歴史史料から組み立てる村のすがた―

行田　健晃

みなさんは、江戸時代の農民について、どのような印象を持っているでしょうか？「年貢が重い」といった情報や、「笠地蔵」のように昔話に貧しい農民が登場しがちなことから、「みんな貧しかった」という印象をお持ちの方も多いかもしれません。

しかし、実際のところ田無・保谷にかつて住んでいた農民たちはどうだったのでしょうか？西東京市に残る歴史史料をもとに見ていくことにしましょう。

江戸時代の田無・保谷

江戸時代、現在の西東京市にあたる地域には田無村、上・下保谷村と、一八世紀頃に開発された新田村（しんでん）がいくつかありましたが、そのほとんどが武蔵野台地と呼ばれる台地にありました。この台地の地質が、水田を作るのに向いていなかったため、一九世紀頃まで水田はこの地域になかったといわれています（「新田」といいながら、その実態は畑でした）。この状況は、「田無」という地名にもよく表れているといえます。彼らは、小麦や大麦、粟（あわ）、ひえ、大根などを栽培し食料としていました。

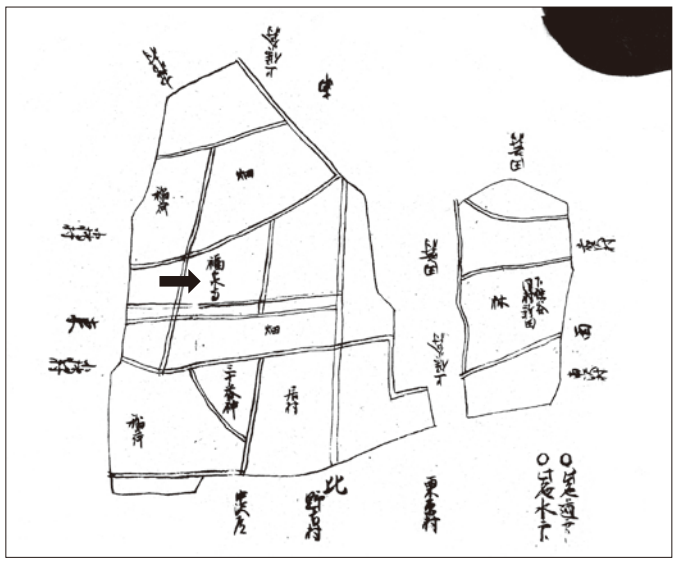
村明細帳（「村様子書上帳」）
天保十四（一八四三）年に代官に提出された下保谷村の村明細帳の表紙。下保谷村は当時新座郡に属していた（田無村は多摩郡）。西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

村明細帳から見る村の姿

江戸時代の村の様子を知るためには、「村明細帳」という史料が有用です。村明細帳は、村がその地を直接支配する武士（「代官」）の求めに応じて提出した村の状況についての帳簿です。まずはここから地域の様子を探ります。

天保一四（一八四三）年の田無村の村明細帳によれば、この時期、村の家数は二六四軒、人口は一一九二人でした。

一方、同じ年の下保谷村の村明細帳を見てみると、こちらには家数一一五軒、人口五三五人とあります。また村明細帳ではありませんが、上保谷村は幕府の記録に、文化・文政期（一八〇四～一八三〇）に家数三〇〇軒余りとあるので、田無村と同じくらいの規模でしょうか。畑地が多い関係で、今より圧倒的に人が少ないことがわかります。



村絵図（下保谷村）
村明細帳と同年に提出された下保谷村の簡略な絵図。「畑」や「林」のほか、矢印（筆者加筆）で示した所には今も下保谷にある福泉寺の名がみえる。西東京市中央図書館地域・行政資料室所蔵

さて、そのほかにも村明細帳にはさまざまなことが書いてあります。村に水田がないので米がほとんどできず、年貢は貨幣で代納していること、農業のほかにしていることは、男は下肥（しもごえ）（肥料）を江戸から買って運び、女は薪（たきぎ）を採るくらいであること、村が困窮していること。これらが、田無村・下保谷村の村明細帳に共通して書かれています。

この記録からは、この地域が貧しかった印象を受けます。

村明細帳は信用できる？

江戸時代の生活は今よりも安定していませんでしたから、困窮する農民がいたことは事実です。また天災によって生活が破壊されることもよくありました。

しかし、それを差し引いても村の自己申告を基に作成された帳簿の内容を、すべて本当のことだと信用してよいのでしょうか？　実は、村明細帳は村の年貢負担能力調査のために作られた関係上、村側が状況を自らに都合よく申告する場合が多々あったのです。では、村明細帳以外の史料は、どうでしょうか。

玉川上水・江戸・青梅街道

実際、この地域の土地はやせていましたが、一八世紀初頭に玉川上水の分水が田無や保谷に届き、耕地開発が進むと村の様子は大きく変わりました。下保谷村の戸数は江戸前期の一・七倍になり、田無村には生活水準が向上して幕末までに人口が倍になったと述べる史料が残っています（田無村の人口は幕末に一六〇〇人を突破）。江戸中期に人々の生活は改善したのです。

さらに、この地域の地理的条件として江戸に近いというものがあります。田無でも保谷でも、作物の多くは、自分たちで食べるほかに、江戸に売りに出されたのです。田無村には安政四（一八五七）年の記録として、売った作物の利益が村全体で六〇〇両（物価の関係で換算は難しいが幕末の一両は約一万円）にもなるとの記述があります。また、林畑の多い下保谷村では採れた薪も江戸向けに売っていたようです。

ほかにも、青梅街道が村を通る田無村には、宿屋、居酒屋、うどん・そば屋、豆腐屋、タバコ・菓子屋のほか、お金を貸す質屋も四軒あったことが寛政三（一七九一）年や天保一二（一八四一）年の記録から判明しています。

田無・保谷の農民が農業以外で生活のためにやっていることはごくわずか―村明細帳のこうした記述は、実は建前にすぎなかったのです。遅くとも江戸時代の後半には、この地域には商売を軌道に乗せるなどして財を成した農民が現れていました。「農民は皆貧しい」というイメージは、必ずしも正確でないことがよくわかると思います。

やすらぎのこみち
筆者が昨年撮影。田無駅近くのこの小路は、この地を流れていた玉川上水の分水の名残。

献金に見る農民の財力

最後に、富裕な農民の財力を示す記録を見てみましょう。

江戸幕府は、幕末に欧米が日本に接近してくるようになると、海防のために江戸湾に台場を造るのですが、この費用の負担が田無や保谷にも「献金」を迫る形で降ってきました。献金ができる家はある程度裕福だといえますが、この時の記録を見ると、下保谷村からは八家が合計三〇両を、田無村からは三〇家が合計で実に約二〇〇両を拠出していることがわかります。さらに、田無村の「献金」の内、半分の一〇〇両は下田家という一つの家によって負担されています。

そして、富裕な農民の中には、村の代表である「名主（なぬし）」になる者もいました。たとえば先に述べた下田家は田無村の名主です。

次回は、この名主の仕事・役割についてお話しいたします。

行田　健晃（ぎょうだ　たけあき）
1993年生、東京都東久留米市出身。
現在、都内私立中学・高等学校教員。修士論文『幕末の百姓と武力』執筆の際の史料調査が縁となり、2017年から毎年夏に開催される西東京市図書館主催の「子どものための地域を知る講演会」で講師を務める。著作に「融解する町・村の境界線」（大石学監修・東京学芸大学近世史研究会編『江戸周辺の社会史』名著出版、2018年）などがある。

声の「公民館だより」をお届けしています。知り合いで希望される方がいらっしゃいましたら、谷戸図書館（電話042-421-4545）へお問い合わせください。

まちがいさがし

梅雨の季節の今月はカエルにちなんだまちがいさがしです。
まちがいは5つ。回答は下にあります。

作画：いげた みずき（中学3年生）

※タッチの違いや色の濃淡はまちがいに含みません。

【報告】田無公民館主催 父と子の料理講座「パパっと、ごちそうレシピ！」

令和元年10月14日～11月24日（全3回）

小学生と父親の親子16組が、みんなで役割分担しながら協力して、簡単でおいしい和洋中のパーティ料理作りに挑戦しました。

キッズキッチンインストラクターで管理栄養士の吉田朋子さんのわかりやすい指導のもと、皮むき器や包丁の安全な使い方、調味料の量り方などの基本から、市販ルーを使わないシチューの作り方やおいしいチキンの焼き方までを体験しました。

家族のため、自分のために料理を作る力は一生の宝物。子どもたちからは、「自分で作った料理が自分で作ったと思えないくらいおいしいしすごかった」「おうちでケーキが作れると思わなかったのでびっくりした！」「みんなで作るのが楽しかった」「お父さんと家でまた作りたい」「家族に作ってあげたい」などの感想が寄せられました。料理作りは、「自分ってすごい！」という自信につながったようです。

ちらしずしとほうれんそうのごまあえづくり

【報告】保谷駅前公民館主催 人権講座「多磨全生園（ぜんしょうえん）のコミューン（自治）とハンセン病文学を学ぶ」

令和元年11月14日～12月5日（全5回）

国立ハンセン病資料館の協力のもと、事業部所属の学芸員3人を講師に、それぞれの研究テーマに沿った内容で行いました。23人が参加しました。

2回目の木村哲也氏の「ハンセン病文学を学ぶ」では、詩人で評論家の大江満雄とハンセン病詩人たちの交流と、その創作活動を通して発展していく、人間の尊厳をかけた闘いや、らい予防法廃止運動を学びました。大江満雄は全国の療養所を訪れて詩人たちを発掘し、励まし、ともに詩集を編集し続けた人です。

参加者からは、「ハンセン病療養所という閉ざされた世界の中で生命と向き合ってきた人たちの詩を初めて知りました。彼らを発掘し、育て、ハンセン病のための社会的活動家に育てた大江満雄の名前も初めて知り、その活動に心打たれました。そして大江満雄を更に深く知り、人々に紹介しようと活動されている木村さんの熱い心にも触れ、実りのある時間でした」「文学は文学にとどまらず、言葉は言葉にとどまらず、世の中を変える力となり、山を動かすほどのものとなることを思いました。舌で点字を必死に読み（舌読（ぜつどく））永遠の命を見出したのには感動しました」という感想が寄せられました。

病に苦しみ、療養所内の不当な扱いに苦しみ、差別に苦しみながらも希望に向けた詩を書き続けた人々の魂に触れる講座でした。

産声をあげさせてもらえなかった子どもたちの墓に参る（全生園にて）

おたのしみ川柳

今月のお題「時」

・川の字で子らと泳いだ部屋独り　さいま
・時の旅できたら君に何告げる　詩織
・公民館心安らぐ時と場所　山田元一

編集室では、みなさまの投稿をお待ちしています。氏名・住所・電話番号を記入の上、お近くの公民館に郵送、メール、持参でお寄せください。

8月号のお題「盛」です　締切 6月25日(木)

サークルから 会員募集

富士町カラオケ同好会
若さを取り戻す、楽しいカラオケで。お待ちしています。
月3回水曜日／13時～17時／富士町福祉会館／60歳以上対象／月額500円

西東京サイクリング倶楽部
サイクリングで健康保持と豊かなシニアライフを楽しもう！
第2・4日曜日／9時～16時／田無公民館から近郊／参加費100円

8月1日号の原稿締め切りは、6月19日(金)です。

田無公民館利用区分変更のお知らせ

8月利用分の申し込み（6月の抽選申し込み）から、田無公民館の部屋（視聴覚室と実習室以外の部屋）の利用区分が3区分から4区分に変わります。ご注意ください。

公民館運営審議会

傍聴をご希望の方は、事前に申し込んでください。

時　6月24日(水) 9時半～
場　柳沢公民館
内　事業計画・報告について
申　電話で柳沢公民館へ

君と生きる

※新しい感染症という危機をみんなで乗り越えていくことが課題の今、地域でさまざまな活動に取り組んでいる方たちの声をお伝えするコーナーです。

#ステイホーム、#ステイルーム
佐藤〈TOMOPO（共歩）代表〉

私は、ひきこもりを応援する会の代表をしております。これから、地域のみなさんと連携して「助っ人」による助け合いの輪を作ろうと考えていた矢先、コロナ禍により動けなくなりました。

さて「ひきこもり」というと8050問題やさまざまな事件などで、ネガティブな話題にばかり登場します。しかし、#ステイホームの今、これを誰よりも実践しているのは、ひきこもりたちです。中には食事もひとり部屋でとるステイルームの強者もいます。ゴールデンウィークは、ステイホーム疲れで、海や公園などに繰り出す人も多かったとのことで、一般の人なら、家にこもっていると気持ちがまいってしまうのに、ひきこもりたちは、それを日常として平静に暮らしています。これはある種の才能なのでは？　事件の時などはひきこもりということで批判の対象にされがちですが、こんな時こそ、ひきこもりの才能に注目してくれる人は、いないのでしょうか？

現在、活動ができず、メーリングリストにてお互いの近況報告をしている状態ですが、文章からいろいろと想像し、時には、こんなつながりも楽しいなと感じております。そして、コロナが終息したら、またみんなでワイワイと楽しく活動をしていきたいと考えております。その日まで、ひきこもりたちの気持ちを考えながら、ステイホーム!!

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

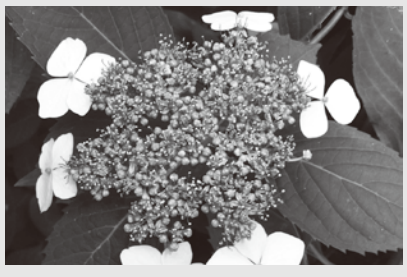
「TOMOPO（共歩）」は、ひきこもりの子どもを抱える親たちが、子どもとどのように接し、どのように行動したらよいのか悩み、立ち上げた会です。

私たちは、ひきこもっている人たちの気持ちに寄り添い、共に感じ、共に歩んでいくために活動しております。

【連絡先】代表、佐藤
〈メールアドレス〉tomopo.tomoniayumu@icloud.com
〈電話〉070・6993・6662

梅雨時の花：昆虫を呼び寄せる仕掛け

ガクアジサイ



アジサイは雨によく似合います。身近では花が丸く集まったアジサイのほかにガクアジサイが見られます。周囲を飾る花弁に似る4枚のがく（萼）を持つのは装飾花で、中央の多くの小さな花（おしべ、めしべがあり実を結ぶ両性花）を囲む額縁のように見えるため、その名があります。装飾花は、目立たない両性花の受粉を助ける昆虫を呼び寄せる役目をします。両性花が受粉に成功すると装飾花は役目を終え、上を向いていたものが反転し裏返しになります。注意して見てください。

ハンゲショウ

雑節「半夏生」（夏至から11日目）の頃に咲くためハンゲショウの名があります。ドクダミの仲間です。写真の中央に見られる穂状に湾曲した小さな花が咲く頃になると、花の近くにある緑の葉が次第に表側だけ白色に変わります（このため、別名をカタシログサといいます）。この現象は受粉を助ける昆虫を呼び寄せるためといわれており、受精が終わるとしばらくして白い葉が元の緑色に戻ります。

文・写真　大森拓郎（新町在住）

【まちがいさがしの答え】
① 右側のハスの葉の数　② 右側のハスの花の水面　③ 左側のハスの花のはなびらの数　④ 浮かんでいるハスの葉の数　⑤ 手前のハスの葉脈の数